

ラオス小児医療プロジェクト

活動団体／認定 NPO 法人 世界の医療団

2020 - 2021 第 3 期

ミッション名称	ラオス小児医療強化プロジェクト 第 3 期
活動時期	2020 年 2 月～ 2021 年 5 月
地域	ラオス フアパン県 ソン郡・フアムアン郡・クアン郡
上位目標	フアパン県対象地域における母と子の健康状態の向上に貢献する
期待される成果	●ヘルスセンターでの外来診療とアウトリーチ(訪問)が恒常的に提供可能となる ●ヘルスセンターの医療従事者が、乳幼児の疾患予防と重症化回避に必要な知識・技術の習得と実践を継続できる ●モニタリング委員会が、対象医療施設と村落健康普及委員会の活動を指導、監督できる

活動内容

- ヘルスセンターの整備・設備強化
- 医療従事者の小児医療技術研修
- 評価モニタリング能力強化、関係各者の連携強化

フアパン県対象地において、郡保健行政が一次医療施設の整備と基礎医療サービス強化を持続的に行っていく能力の向上を図ります。2017～2020 年の事業活動地であったソン郡、フアムアン郡では本事業関係者の郡レベルの評価モニタリング能力強化を通じ、保健行政を担う村落健康普及委員会・医療施設・郡保健局の連携を促し、医療施設の自己学習(教訓学習)能力を向上します。また、両郡の取り組みを見直して洗練させながら、新規介入地となるクアン郡や他郡に応用できるようなモデルづくりを行います。クアン郡では、まずはヘルスセンタースタッフが基礎医療サービスを安定提供できるように医療施設・設備強化を行います。また、ソン郡・フアムアン郡の経験と成果を活かし、医療スタッフの基本的な診療技術、子どもへの診療技術等を向上します。

活動内容・実施状況

ラオス小児医療強化プロジェクトの第 3 期では、フアムアン郡、ソン郡での 3 年間の事業の締めくくりを行っており、現地での基礎医療サービス強化とその継続を強固なものにしています。また、前記 2 郡での事業の締めくくりと同時に、活動範囲をクアン郡に拡大しています。少数民族のモン族とカム族が居住するクアン郡は、フアパン県内でも貧困率が高く、医療施設は老朽化しており、基本的な医療資材も不足している地域です。



一次医療施設の整備・設備強化

正しい診断や診察を行うためには、衛生的な医療施設と基本的な医療資材が不可欠であり、当事業期間の前半、世界の医療団は医療施設の修繕と医療資材の提供に注力しました。

ラオス小児医療プロジェクト

活動団体／認定 NPO 法人 世界の医療団

2020 - 2021 第 3 期

医療従事者の小児医療技術研修

医療従事者たちの小児医療に関する知見や技術を向上する研修を継続しており、新たに活動地域をクアン郡にも拡大しています。ファムアン郡、ソン郡の病院のスタッフたちは、直近3か年の育成活動により、自身が研修者となってクアン郡の医療施設を訪問しています。現地のスタッフ同士での技術移転や研修が可能になりつつあります。



評価モニタリング能力強化、関係各者の連携強化

モニタリングや評価システムがなかったために、母子保健に関する達成目標や指標が明確ではなく、関係各者の連携がとれていませんでした。世界の医療団は対象医療施設と村落健康普及委員会に対して評価モニタリングの基礎を研修し、彼らと共にモニタリングと評価のプランを策定しました(写真:下左)。医療施設は、目標を達成するために村落健康普及委員会が活動を行っているかモニタリングし始めています。郡保健局もヘルスセンターに対して同様の責任を負うようになりました(写真:下右)。村落健康普及委員会、医療施設、県保健局の繋がりが強くなり、目標の達成へ向かっています。



新型コロナウイルス対応

ラオス政府から第3期の当事業の承認を得た直後、2020年3月にラオスでも新型コロナウイルスの影響による都市封鎖が行われ、厳しい移動制限が課されました。世界の医療団ラオス事務所の職員は、新型コロナウイルス対策としてWHO主導の感染予防研修を受け、医療施設の職員たちとファパン県でのコロナ対策に備えました。また、研修を受けた世界の医療団の職員から、他のNGOの職員や村落健康指導員たちにも研修内容を伝えました。

6月には、ラオス国内の新型コロナ感染は沈静化し事業を再開することができましたが、この感染症の出現により、ラオスの医療システムの脆弱性が改めて浮き彫りになりました。ラオスの母親たちと子どもたちが継続的に質の高い医療ケアを受けること、予防接種を受けることや5歳未満児の死因の上位を占める肺炎や下痢の治療を受けられるようにすること、妊婦が検診を受け、安全に出産できる環境を整えることは、この事業を続けることで強化されていくでしょう。

